

# 家畜衛生 いずも

島根県東部農林水産振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

## 国内で高病原性鳥インフルエンザが大発生しています！

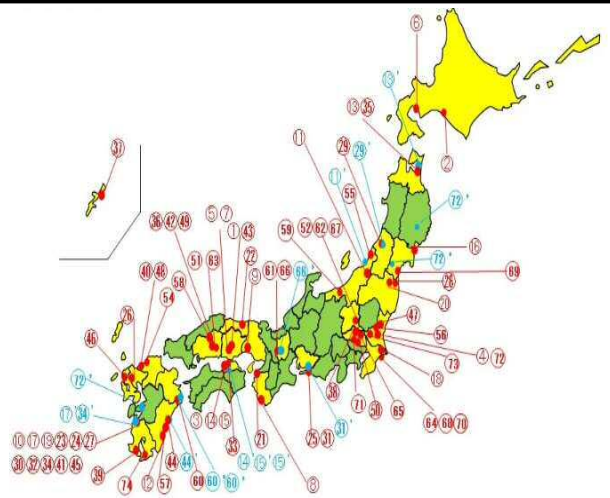
高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)は3シーズン連続での発生となっており、今シーズンはすでに過去最大の発生数となっています(2月3日現在25道県74事例1363万羽が殺処分)。渡り鳥や野鳥はもちろんのこと、環境中にも多くのHPAIウイルスがあるものと想定し、農場内に病原体を持ち込まないように細心の注意を払う必要があります。

また、豚熱も野生イノシシにより国内で広がっており、県内でも西部地区において感染したイノシシが認められています。口蹄疫もアジアでは未だ発生が続いています。

伝染病の発生予防には、農場内に病原体を持ち込まないのが最も重要です。野生動物の侵入防止、車輛や出入りする人の消毒などの対策は上記の重篤な伝染病だけでなく、国内に従来からある下痢や呼吸器病等の伝染性疾病にも有効であり、ひいては生産性の向上につながります。

今一度、次の特に重要な7項目について、経営者の方から従業員の皆様まで、衛生対策に万全を期していただきますようお願い致します。

令和4年度 高病原性鳥インフルエンザ国内発生状況



- ① 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等
- ② 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用
- ③ 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等
- ④ 畜舎に立ち入る者の手指消毒等
- ⑤ 畜舎ごとの専用の靴の設置及び使用
- ⑥ 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕
- ⑦ ねずみ及び害虫の駆除



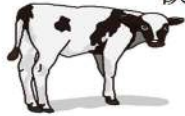
キュー



## 5条検査

島根県では、家畜伝染病予防法第5条に基づき、牛のヨーネ病検査を実施しており、本年度は奥出雲町(旧横田町)を対象に実施しましたが検査終了し、全頭陰性を確認しています。ご協力ありがとうございました。なお、今後の検査予定は下記のとおりです。対象地域の畜産農家および関係機関の皆様には、ご協力をお願いします。

年度	5条検査対象地域
R5年度	奥出雲町(旧仁多町)、雲南市(吉田町および掛合町)
R6年度	雲南市吉田町および掛合町を除く地域、出雲市斐川町
R7年度	出雲市(旧出雲市)、飯南町(旧頓原町)
R8年度	出雲市(旧出雲市および斐川町を除く地域)、飯南町(旧赤来町)
R9年度	奥出雲町(旧横田町)



検査対象牛：24ヵ月齢以上の搾乳牛および繁殖牛等

検査項目：ヨーネ病抗体検査（採血をして検査します）

検査費用：1頭あたり800円



### ヨーネ病とは…

牛等に頑固な下痢を引き起こす伝染病です。原因はヨーネ菌という細菌で、全国で多数の感染牛が確認されており、ワクチンや治療法がない病気です。本病の防疫対策には、患畜及び保菌牛の摘発と殺処分、汚染物の徹底した消毒が必要です。

## 島根県では、産業動物・公務員分野の獣医師を募集しています

島根県では、公務員獣医師や産業動物獣医師確保のため、R3年度から、県内の大型農場や獣医療機関と連携協定を順次締結し、多様なインターンシッププログラムの提供や、共同研究のサポート等、獣医系大学との結びつきを深める取り組みを実施しています。



### ■島根県 HP「獣医師に関すること」

<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/seisan/dobutu/juushi/>

また、島根県獣医師会のツイッター(下記 QR コード参照)でも紹介されていますが、2月は、しまね和牛・しまねの牛乳・しまねの獣医師を紹介するテレビ番組「ぎゅーどろいどウシ右衛門」が毎週日曜日に放映中です。当所職員や(有)藤増の皆さん、ダムの見える牧場の大石夫妻などが出演されますので、ぜひ御覧ください(番組詳細はBSSホームページでも確認できます)。



撮影中の一コマ

(ダムの見える牧場)



左から、ツイッター、インスタ、TikTok の QR コードだよ

各種リンクは、島根県HPから「獣医師確保」で検索してください。

## 転ばぬ先の杖、ワクチン接種で牛の異常産、風邪の予防をしましょう！

### ○春には異常産予防のワクチン

せっかく受胎しても、異常産がおこってはなんにもなりません。ウイルス性の異常産は、ワクチンにより予防できます。牛異常産ワクチンで予防できる病気の主なものは以下のとおりです。

#### ○アカバネ病

吸血昆虫(主に体長1~3mmほどのヌカカ)によって媒介され、夏から秋にかけて牛に流行します。流死産が認められ、先天性異常(関節の湾曲などの体型異常や水無脳症(大脳欠損症)を持った子牛の分娩)は、流行のあった年の冬から翌年の春にかけてみられます。関節拘縮を伴った子牛の分娩は難産となる可能性が高く、親牛に重篤なダメージを与えることになります。また、生後感染により子牛や育成牛に後軀麻痺などの神経症状を起こすこともあります。

#### ○アイノウイルス感染症

アカバネ病に類似し、流死産や先天性異常が起こります。また、小脳の形成不全が高率に認められるのが特徴です。

#### ○チュウザン病

アカバネ病、アイノウイルス感染症に類似していますが、流死産や関節湾曲などの体型異常は少なく、虚弱や起立不能などの運動障害や大脳欠損および小脳形成不全などの中枢神経系の異常が特徴です。

#### 【ワクチン接種の対象牛】

1. 繁殖母牛 (夏から秋にかけて妊娠している、または妊娠する予定の牛)
2. 自家保留育成牛 (概ね6ヶ月齢以上の繁殖候補牛)

#### 【接種時期】

各地域の家畜自衛防疫団体が実施するワクチン接種期間内(概ね4月~6月)  
牛異常産4種混合ワクチンは、初年時は2回注射する必要があります。

### ○子牛の風邪予防にIBR

ヒトではインフルエンザ等がありますが、牛にも様々な風邪の原因があります。特にウイルス性の風邪は、抗生物質(薬)が効かない、感染が広がりやすい、という特徴があり、予防するにはワクチン接種が有効です。

主なウイルス性の風邪には、牛伝染性鼻気管炎(IBR)、牛パラインフルエンザ(PI3)、牛RSウイルス病、牛アデノウイルス病、牛ウイルス性下痢(BVD)等があります。

風邪(肺炎)は、症状に気づかない「隠れ肺炎」もありますし、下痢だと思っていたら実は主因は肺炎だったということもあります。また、ウイルスが感染したところに細菌が二次感染して複合感染を起こすと症状が悪化します。子牛が肺炎になると肺にダメージが残り、その後の発育に大きな影響を与えます。ウイルス性の風邪予防は大切です。

獣医さんが生産検査で接種されるのは、上記の5種類の混合ワクチンです(IBRだけでなく、5つものウイルスを防いでくれているのです。お得ですね！)。主だった風邪のウイルスを網羅していますので、忘れずに接種してもらいましょう。

ワクチン接種に関しては各家畜自衛防疫団体、家畜診療所にお問い合わせください。

## 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会が終わって…

全国和牛能力共進会は、全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の進捗度やその成果を確認するために5年に1度開催される共進会です。昨年10月開催された鹿児島県大会で、当県が好成績を収めたことは既報のとおりです。

県立出雲農林高等学校は特別区で5席と特別賞(顔品賞)を獲得するとともに、調教技術も高く評価されました。また、いずれも奥出雲町からの5区(高等登録群)は1等賞首席、6区(総合評価群、種牛部11席)は肉牛との総合で優等賞3席となりました。一方で肉牛区は、早くから受精卵による候補牛作出を決定し、関係者が一丸となった取組を行い、好結果が期待できる素牛が揃い、(有)藤増とJAしまね雲南地区本部吉田肥育センターに導入され、全共本番での好成績(6区肉牛部首席、7区8区2席)に繋がりました。島根県は30数年振りに定位置であった上位に帰り咲きました。

肥育牛生産は出生前からの母牛の飼養管理から始まり、肥育牛生産者の牛の特性等を見抜いた肥育技術や知識を駆使して、能力を最大限に発揮させる事が重要で、その技術体系は飼養者の経験に裏付けされた“ソフトパワー”であり、県内の和牛関係者の醸成の結果であります。これらの成績を得ても、管内生産者は更に上の結果を求めて“攻め”姿勢を緩めていません。

出雲農林高校は、全共後の1月に行われた“第6回和牛甲子園”枝肉評価部門でも「優秀賞」を獲得し(写真1)、次世代育成が教育の場でも結実していることが伺えました。



(写真1)

奥出雲町では全共出品者またはハンドラーはいずれも地元の若い担い手であり、後継者育成が確実に推進され、全共対策が担い手づくりにも貢献していることを実感しました。全共後の東部子牛共進会でも、勢いをそのままに全共の出品者またはハンドラーが中心となり、上位をほぼ独占しました。

藤増牧場は昨年12月の島根県枝肉共励会をBMSNo12、食肉公社史上最大のロース芯面積 138cm<sup>2</sup>の圧巻の枝肉で制し(写真2)、年間チャンピオンに選拔されました。また全共入賞牛の肉 250kg! を出雲市へ学校給食用と寄贈され、JA 雲南は吉田肥育センター産の肥育牛の斡旋販売が大好評でした。

ロースとかぶりが…凄い



(写真2)

現状は価格低迷や飼料高騰など厳しいですが、有望な次世代種牛も造成されており、5年後の北海道大会は、今大会を上回る成績を獲得しなければ今回の結果も水泡に帰します。更に強力に「ALLしまね」の絆を深めて対応しなければなりません。

当所は本稿を次回の出品対策も特に衛生、繁殖の面から微力を尽くすこと約束し、改めて生産者の労苦に敬意を表して、次なる戦いへの“のろし狼煙”と代えさせていただきます。

### 編集後記:

全国的な鳥インフルエンザの猛威が治まらず、豚熱のイノシシ感染事例が県内で相次ぎ、生産者におかれましては安穩と出来ない毎日と思います。しかし、10年以上県内発生がないと言うことは、ひとえに農場の衛生管理の賜物で、そうした日々の積み上げが未発生という結果をもたらしているものと存じます。徐々に日が延びてきました。皆様へ真の“春”の訪れをこころより祈念しております。